

高齢者のより豊かな衣生活を求めて
文化女大家政 ○岡田宣子

目的 豊かな衣生活を求めるための「衣生活行動に関するアンケート調査」を1993年6～7月に実施し、高齢者の衣生活の現状・問題点を若年女子と比較しながら検討した。

方法 65歳以上の健常高齢者（高年）男子550名・女子700名、20歳代の若年女子300名の調査対象から得られた総数1117名について、80項目の質問内容を、①被服関心度、②被服の選択行動、③既製服サイズ、④衣服着脱に関わる身体機能、⑤扱いやすい日常着、⑥着脱行動と身体機能、⑦高齢者にやさしい衣服と豊かな衣生活、などに分け、平均値間の差の有意性の検定および、因子分析、林の数量化Ⅲ類により検討した。

結果 1)高年女子の被服関心度の全体平均は若年と同様高い。「管理・慎み」では高年女子が、「快適性」では高年が、「影響・関心」では若年女子が、「美」では女子が高い。2)被服の選択行動は「着心地のよさ・飽きのこない」及び「ファッション性・価格」の軸と解釈できる。デザイン豊富なファッション性に富んだ売り場で、ショッピングを楽しみたいとしている。3)サイズ不適應で「寸法直し・我慢する」及び「店頭購入・注文購入」の軸を抽出した。4)「身体部位の痛み、視力・巧ち性・平衡能の低下で着脱が大変になると前あき志向」及び「可動範囲の狭まりから扱いやすい前途中あきのTシャツ・胴囲非拘束志向」を抽出した。機能低下は個人差が大きい。機能を充分生かし自立して生き生きと豊かに生活するには、個人対応の寸法直しや装着具の付け替え・衣服改良サービスなどの普及や促進が必要である。高齢者に適切なパターン・サイズ設定がなされると、要介護老人には、通信販売で多種のデザインから自分で選択購入も可能となる。衣服管理に便利な機能付加製品や扱い易い洗剤・機器具の開発、高齢者の身体・生理特性をふまえた衣服設計などが課題である。